

まべちだより

令和2年
7月
vol.105

暑さが厳しくなり、太陽がまぶしい季節になりました。
八戸出張所では出水期に入り、今後の大雨に備えて馬淵川の



「流域調査」

を行いました！

流域調査は、馬淵川が源流からどのような経路をたどって河口に流れているかを実際に現場に行って確認することで、大雨・洪水時に注意すべき点を把握し、時期出水に備えるものです。今回は、6/18、6/19の2日間に渡り、出張所長・管理第一係長・管理第二係員の3名で馬淵川と支川の安比川・熊原川を確認しました。



八戸市内から源流に向かうにつれ川が小さくなっていき、透明度も増して行きます。

▽馬淵川（葛巻町冬部）



▽馬淵川下流部



▽馬淵川源泉

自然ってすごい！



源泉から流れる水はとても綺麗でした。また、その流れは下流に比べるととても小さく、この源流からいくつもの支川と合流し、河口に向かって大きな流れになっていくことを考えると自然の凄さを感じます。



▽みろくの滝（熊原川）



熊原川の上流には岩肌から流れる水が神秘的な観光名所「みろくの滝」があります。調査した日はとても蒸し暑かったのですが、この場所はとても涼しく、別空間にいるようでした。

▽熊原川みろくの滝付近



▽馬淵川・熊原川合流点付近



流域調査の中で驚いたのは馬淵川の流域の広さです。本川・支川ともに下流から上流に向かうにつれて道が険しくなっています。

▽馬淵川・安比川合流点付近



今回の調査で、気象情報を広域的に見て予測をする必要があるということを改めて実感しました。八戸市内では降水量が少なくても上流の岩手県北部や支川の降水量が多いと時間差で八戸市内（馬淵川下流）の水位が上昇していきます。上流の降水量、支川の合流部の水位を確認しながら対応に当たりたいと思います。

